



志村第一小学校コミュニティ・スクール委員会だより

〈家庭数配付〉

令和7年9月30日

板橋区立志村第一小学校

校長 高橋 宏彰

第3回コミュニティ・スクール委員会を令和7年9月19日（金）に開催しましたので、次のとおり実施状況を報告します。

1 玉田委員長より

忙しい中お集まりいただきありがとうございます。子供たちは夏休み前の元気を取り戻してきているとのこと。充実した2学期を過ごしていただきたいと思います。今回は子供たちとの交流がありますので、よろしくお願いいたします。

＜今後の地域・学校行事について＞

10月11日（土）9：00～ しみずスポーツフェア 本校で実施

10月25日（土）運動会

12月5日（金）6日（土）学習発表会



【道徳授業の様子】

2 協議会の様子 熟議テーマ「地域・家庭と連携した『相手の気持ちを想像する力』『思いやりの心』を育む取組の充実について」

コミュニティ・スクール委員の皆様より、本日の授業や学校の取組の更なる充実について、次のようなご意見をいただき、意見交換をしました。

（熟議で出された意見）

- ・3年生の授業は、ドッジボールを教材とした授業だった。先生がいろいろな意見を引き出してくれた。いろいろな意見を聞く中で自分の考えを深めている感じだった。「相手の気持ちを考えるなんて無駄じゃないか」という意見に対して、そのような意見に流されることなく「それは違うよ」とか、「私はそうは思わない」などと自分の意見をきちんと言えていたのがよかった。
- ・道徳の授業では理想的な考えを言えるが、現実になるとそれを行動に移せるか難しいことが多い。
- ・道徳の授業だけではなく、実践できるかどうか大切だと思う。家庭の中だけではなく、地域のご年配の方に対してなど様々な場面でも実践してほしい。
- ・思いやりが大切なことは分かっているけど、そのことをいろいろな人に働きかけるにはどうしたらよいか。
- ・自分自身の「心の窓」を開けないといけないのではないか。挨拶をして、返してもらえたら「心の窓」を開けられる。相手の声を聞くことが心を育てることになるのではないかな。
- ・ジュニアリーダーを育成する立場として言い続けていることは、思っていることを実行に移すためには、一歩踏み出す勇気が大切であるということである。
- ・道徳の本質は変わることがない。1年生でも一生懸命考えて手を挙げて考えを伝えている。学校で一生懸命考えることを大人が育てていき、積み重ねていくことが道徳性を育むことにつながると思う。
- ・道徳の年間計画を通じてPDCAを繰り返し、思いやりの心を体得させていくといいと思う。実際に行動する場面を作ることがよいのではないかな。
- ・祖父母は孫には優しい。しかし父母は子供に叱ってばかりいる。思いやりの心を子供に伝えるには、叱りっぱなしではなく、親として子供を思う気持ちも伝えていくことが大切だと思う。

コミュニティ・スクール委員の皆様には、道徳授業地区公開講座の意見交換会にもご参加いただきました。子どもたちの豊かな心の育成に向け、今後も学校、家庭及び地域が一体となった取組を進めていきます。